

美唄

BIBAI

禁煙サポート従事歯科医師等養成研修会 (平成28年度口腔保健推進事業)

日時:平成29年2月9日(木) 午後7時~午後9時

場所:ホテルスエヒロ

講師:北海道保健福祉部健康安全局地域保健課

医療参事 佐々木 健 先生

みかみ歯科・矯正歯科医院 歯科衛生士

北海道歯科衛生士会苫小牧支部長 西東 聖子 先生

美唄市では、道内初となる受動喫煙防止条例が平成28年7月1日に施行された。公共施設に分煙を認めない敷地内または施設内禁煙とし、屋外でも学校の通学路(登下校時に校門から100m以内の路上と公園)での喫煙禁止を努力義務とした条例である。

この条例制定に尽力された美唄医師会会長 井門 明 先生、美唄市保健福祉部長 千葉一夫 氏の挨拶で研修会は始まった。

はじめに、佐々木 健 先生より「禁煙外来等医療機関における禁煙治療と歯科診療所での対応」という題で講義があった。我々歯科医療従事者は喫煙習慣をニコチン依存症と捉えてその状況を把握し、短時間で簡単なアドバイスを行なうことにより、禁煙治療を上手にサポートできる立場にあるということをご解説いただいた。



続いて西東聖子 先生より「歯科診療室における患者さんへの禁煙の働きかけの実際」の発表があり、いくつかの興味深い症例の報告を通して、衛生士の立場からの禁煙指導への介入の重要性をわかりやすく説明いただいた。

その後、演習が行われた。出席者はペアになり、互いにロールプレイを行い、研修会は終了した。

終了後は普段参加する機会がない院内スタッフも交え和やかに懇親会が行われた。(滑川貴彦 記)

当会データベース限定公開(FC1)

美唄歯科医師会は平成12年よりホームページを立ち上げ、会員向けサイトに会員用の情報資料を伝達するシステムと、週2~3回の会員向けメールシステムの両輪を活用して現在に至るが、平成22年よりは、より大なる資料情報について、より簡便で他人の手に依存しない(すなわち経費がかからない)情報管理システムで補充する体制に迫られ、当時城西歯科(現明海大学)のFC1の利用を開始して今日に至る。

爾来、約7年を経過するわけであるが平成23年には会務のペーパーレス化を図るべく全会員へI-Padも配布している。

このたび、平成29年4月のみ限定公開ではあるが、当会

のデータベース(FC1分)を全道歯科医師の皆様のお眼に触れていただき、ご自身の会による情報量と手段の違いについて、会員にとって会から与えられている情報はどの程度が適切なか、会員の権利とはどのようにあるべきなのかをお考えいただく一助の叩き案として公開に踏み切ったものです。

明海大学歯学部FC1接続マニュアルに則り、FirstClassデスクトップクライアントをダウンロードして、IDとパスワードを打ち込むことにより、美歯会会員として配布された資料を見ることが出来る。

ただし、一部内容については非公開として閲覧不可の措置をとっております。

また、兄弟会である空知歯科医師会、岩見沢歯科医師会と共有する道央北データボックスについても、この2月の道央北ブロック役員連絡協議会にて限定公開に賛同を得られたことに感謝したい。

ご参考になれば幸甚と存じます。

ユーザーID bishikai

パスワード 2011114

(小森英世 記)

函館

HAKODATE

第2回 函館市医療・介護連携多職種研修会

日時:平成29年2月11日(土・祝) 午後2時~午後6時

場所:ホテル函館ロイヤル

標記研修会に函館市内から総勢270名の参加者が出席をした。函館会から10名の先生方が、在宅歯科医療連携室から5名の相談員が出席をした。

「函館市医療・介護連携支援センターについて」と題した講演を、函館市医療・介護連携支援センター準備室相談員(ソーシャルワーカー)の高柳 靖 氏によって行われた。その後、1グループ8名ほどの同職種のグループにわかれ、「専門職の視点で見える問題点と適切な連携のあり方」と題して具体的な事例を使い、グループワークを行った。次に、多職種(医師・歯科医師・薬剤師・看護師・准看護師・歯科衛生士・保健

師・介護支援専門員・MSW・鍼灸マッサージ師・柔道整復師・作業療法士・社会福祉士・言語聴覚士・管理栄養士・理学療法士など)のグループに再編成し、「多職種の視点で見える問題点と適切な連携のあり方」と題してディスカッションを行った。それぞれの職種の視点から見える問題点や改善点、適切な連携のあり方などプロフェッショナルな意見交換をし、改めて、介護の現場での歯科医師の関わり的重要性や情報の共有の大切さが今まで以上に必要であると認識させられた。患者さんのADLの情報のほとんどは、現場で収集されており、その様々な情報が介護医療にとって、とても重要であるという事実を知られた。

その後、会場を移動し、懇親会が開催された。「顔の見える関係を築く!絶好の場」ということもあり、所々で、名刺交換をし、これからの連携について熱く語り合い、終始、穏やかな雰囲気のまま終宴となった。

今後の歯科界にとって、超高齢社会を迎える近い将来、介護医療への参入は不可欠となるであろうと思いつつ会場を後

にした。(向山英明 記)

